

会長講演



私の皮膚外科への取り組み

香芝生喜病院 皮膚科

加茂理英（かもりえい）

形成外科を研修し、皮膚科で皮膚悪性腫瘍を専門とするようになって、腫瘍切除後の整容的な手術を常に意識してきました。若いころは技術や知識が未熟で、手術が長時間になったこともよくありました。現在はできるだけ1回の手術で完了できるシンプルな手術を心がけています。今回テーマ演題として取り上げた「顔面の局所皮弁」は、同じ部位でありながら個人差や切除の形やサイズが違うことで、皮弁作成に微妙な差を生じ、それが整容に影響することがしばしばあります。時に皮弁ではなく全層植皮を選択することもあります。会長講演では、顔面の局所皮弁を中心として、私なりの手術への取り組みについて発表させていただきます。

略歴

- 1990年 大阪市立大学医学部 卒業
大阪市立大学医学部 皮膚科 入局
- 1991年 北海道大学附属病院 形成外科 医員
- 1993年 大阪市立大学医学部 形成外科 研究医
- 2000年 大阪市立大学医学部 皮膚科 助手
- 2005年 大阪市立大学医学部 皮膚科 講師
- 2014年 大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学 准教授
- 2018年 香芝生喜病院皮膚科 副院長

特別講演



超音波で皮膚を切る

(高周波超音波検査機器による診断と治療への応用)

都立墨東病院 皮膚科

沢田 泰之

以前の皮膚の超音波検査は粉瘤が診断できる程度で、それも占いに近いレベルにあったように思う。近年、22MHz以上の高周波超音波検査機器が出現し、少し様相が変わってきている。以前はただの線でしかなかった。真皮内の構造を捉えることが可能になり、血管や毛包はもちろん脂腺なども捉えることができるようになってきている。表皮についてもその肥厚などを捉えることができるようになってきた。組織と比較してみると20倍程度の倍率でプレパラートを見る状況を同じになってきている。今回はプレパラートと超音波検査で同じ断面を切り出し、その所見を比較する。嚢胞壁の厚さや内部構造から粉瘤と外毛根鞘嚢腫を鑑別する。脂腺は綿花状に浮き上がり、石灰化は輝点として輝く。予想していなかった診断が生まれ、再発を予防することもできる。また、超音波を利用した手術法についても解説したい。

略歴

昭和63年3月	信州大学 医学部卒業	
昭和63年4月	東京女子医科大学附属第二病院	心臓血管外科 研修医
平成2年4月	東京女子医科大学附属第二病院	心臓血管外科 助手
平成4年4月	東京医科歯科大学	皮膚科 医員
平成5年12月	東京医科歯科大学	皮膚科 助手
平成7年8月	土浦協同病院	皮膚科 医員
平成8年7月	東京医科歯科大学	皮膚科 助手
平成12年4月	都立墨東病院	皮膚科 医長
平成13年4月	東京医科歯科大学	皮膚科 臨床講師
平成14年4月	東京医科歯科大学	皮膚科 臨床助教授
平成18年9月	都立墨東病院	皮膚科 部長
平成19年4月	東京医科歯科大学	皮膚科 臨床教授
平成28年1月	都立墨東病院日帰り手術センター	センター長

日本皮膚科学会

専門医

血管炎・血管障害ガイドライン作成委員会 委員

学校医委員会 委員

日本皮膚科学会主研修施設

責任指導医

日本臨床皮膚科学会

勤務医委員会委員

日本静脈学会評議員

皮膚脈管膠原病研究会

世話人

墨田区江東区江戸川区皮膚科病院間および病院診療所間連絡協議会 委員